

普及情報

分類名〔病害虫〕

情 15	ハダニ類の天敵である土着カブリダニの県内果樹園地での生息状況
------	--------------------------------

宮城県農業・園芸総合研究所

要約

県内の果樹園地では、ハダニ類等の天敵である土着のカブリダニ類のうち、ミヤコカブリダニ、ケナガカブリダニ、ミチノクカブリダニ、ニセラーゴカブリダニ、フツウカブリダニの生息が確認された。

1 取り上げた理由

施設園芸では天敵を活用した総合的病害虫防除（IPM）の導入が進みつつあるが、果樹品目ではIPMに組み込む技術開発が遅れており、防除は化学合成農薬に頼っているのが現状である。しかし、ハダニ類では一部殺ダニ剤に対する抵抗性の発達が顕在化しており、新たなIPM技術の開発が求められている。そのひとつとして土着天敵の積極的な保護、利用は有望なIPM技術として有望であるが、県内で発生する土着カブリダニ類がどのような種を含むのかについては不明である。そこで、リンゴ及びナシ園地で発生する土着カブリダニ類を調査し、その発生種が明らかとなったので普及情報とする。

2 普及情報

- (1) 県内のリンゴ園地では、ミヤコカブリダニ、ケナガカブリダニ、ミチノクカブリダニ、フツウカブリダニの発生が認められる（表1）。
- (2) 県内のナシ園地では、ニセラーゴカブリダニ、ミヤコカブリダニ、ケナガカブリダニの発生が認められる（表2）。



ケナガカブリダニ



ミチノクカブリダニ



ミヤコカブリダニ



フツウカブリダニ



ニセラーゴカブリダニ

*写真は全て農研機構果樹茶業研究部門リンゴ研究領域岸本氏提供。

利活用の留意点

- (1) 調査対象園地は、リンゴ園は仙台、亶理地域、ナシは仙台地域である。
- (2) ミヤコカブリダニ、ケナガカブリダニは木本、草本の区別なく生息する種であり、ミチノクカブリダニの主な生息場所は草本と考えられている。このことから下草管理はこれらカブリダニ類の生息環境として非常に重要と考えられる。
- (3) フツウカブリダニはリンゴ樹上に生息し、リンゴハダニをよく捕食する一方、ナミハダニはあまり捕食しないことが知られている。
- (4) ニセラーゴカブリダニはハダニ類やサビダニ類、アザミウマ類を捕食する、幅広い食性を持つカブリダニ類として知られている。
- (5) ナシ圃場においては、カブリダニ類以外にもコハリダニ類とマヨイダニ類が観察された。コハリダニ類は一部のサビダニ類を捕食することが知られているが、その生態に関する知見は少ない。マヨイダニ類はトゲダニ目に分類される。トゲダニ目には土壤中の微小昆虫等を捕食する多様な種を含むことが知られ、ハダニ類を捕食する種も存在する可能性がある。

(問い合わせ先：宮城県農業・園芸総合研究所園芸環境部 電話 022-383-8111)

4 背景となった主要な試験研究の概要

- (1) 試験研究課題名及び研究期間
農生態系内の生物多様性向上による総合的病害虫管理技術の開発（平成 30 年度）
- (2) 参考データ

表 1 ナミハダニ寄生リンゴ葉上に生息する土着カブリダニ類

圃場	カブリダニ類採取個体数	同定結果(()内は頭数)
a	6	ミヤコカブリダニ(6)
b	8	ミヤコカブリダニ(8)
c	11	ミヤコカブリダニ(10), ケナガカブリダニ(1)
d	6	ミヤコカブリダニ(2), フツウカブリダニ(4)
e	4	ミヤコカブリダニ(2), ミチノクカブリダニ(2)

調査方法：ナミハダニ寄生葉（約 20 葉）を H30.8 に採取し、ポット植えのインゲン上で概ね 2 週間飼育後に得られた個体を一部採取して同定した。

表 2 ナシ葉上に生息する土着カブリダニ類

圃場	カブリダニ類採取個体数	同定結果 (() 内は頭数)
a	12	ミヤコカブリダニ (4) , ニセラーゴカブリダニ (8)
b	1	ケナガカブリダニ (1)
c	0	

調査方法：H30.6~8 にかけて調査を行った。a 圃場においては 3 樹を対象とし、1 樹につき 20 葉を調査した。7 月第 6 半月以降は 1 樹につき 10 葉を調査した。b, c 圃場においては 3 樹を対象とし 1 樹につき 30 葉を調査した。採取した全個体について同定を行った。

- (3) 発表論文等
 - イ 関連する普及に移す技術
 - (イ) リンゴから採取したハダニ類に対する各種殺ダニ剤の効果（第 94 号参考資料）
 - ロ その他
- (4) 共同研究機関
農研機構果樹茶業研究部門リンゴ研究領域岸本氏提供。